

スタンダード学

1年 前期 14時間制（単位）

講師 佐山百合子

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子】トリミングサロンにおけるトリミング業務, 諸外国・日本国内のドッグショーにおけるハンドリング（犬の表現）及びジャッジ（審査員）業務
学科クラス等の指定	1年生 全員
学習目標	犬の歴史や沿革を学び、犬の分類の経緯やグループ別の特徴を理解し犬についての知識を身につける。
学 び の キーワード	沿革 猟犬 オオカミ 分類 KC AKC FCI グループ 犬体名称 歯 体長 体高 バランス スタンダード
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に犬種図鑑を通読しておくことが望ましい。また、日々の美容実習授業で担当した犬種を図鑑で確認してゆくと理解が深められる。
授業方法	講義のほとんどはパワーポイントで進められる。必要に応じて資料を配布。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席  30%、期末試験70%で評価する。
備 考	最新犬種図鑑（インターズー）
授業回数	
1	犬の生物分類学上の学名、犬の起源について解説する。
2	犬と人類、猟犬の誕生した過程、及び犬の品種改良について解説する。
3	動物生態学説・犬の分類方法について解説する。
4	犬の系統による分類、犬種グループについて解説する。
5	犬種グループについて解説する。
6	使役犬と補助犬について解説する。
7	FCI について、また FCI の系統により分類された犬種グループの解説。
8	犬体名称、歯について解説する。
9	犬のタイプ別骨格図、スタンダードの各項目について解説する。
10	ドッグショーの起源と仕組み
11	審査のポイント
12	トイグループのスタンダード

13	トイグループのスタンダード
14	評価試験

ペットケアアドバイザー学

1年 前期 必修 40時間制

講師 藤田

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	1年生 全コース
学習目標	動物総合学科として、動物看護分野での基礎知識を身につけ専門科講義へのステップとする。また専門で学ばずとも動物と関わっていく中で必要になる知識を習得する最終的に『ペットケアアドバイザー（NAVA）』の資格取得を目指す。
学 び の キーワード	骨、消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌、ワクチン、寄生虫、日常ケア、食べてはいけないもの
準備学習及び復習の内容・履修条件	対象となる教科書を事前に読んでおくこと 高校での生物（細胞）の復習はしておくこと
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
教員実務歴	ペットケアアドバイザー（NAVA）
授業回数	
1回（3コマ）	動物の栄養 栄養学 概論、炭水化物（性質 はたらき）
2回（3コマ）	動物の栄養 脂質（性質 はたらき）タンパク質（性質）
3回（3コマ）	動物の栄養 タンパク質②、ビタミン・ミネラル（性質）
4回（3コマ）	動物の栄養 ビタミン・ミネラル（はたらき）、カロリー計算
5回（3コマ）	動物の健康 日常ケア 眼・耳・爪
6回（3コマ）	動物の健康 日常ケア 皮膚・歯・全身チェック
7回（3コマ）	動物の健康 バイタルサイン
8回（3コマ）	動物の健康 応急処置
9回（3コマ）	動物の健康 外傷の応急処置
10回（3コマ）	衛生管理 感染症について
11回（3コマ）	衛生管理 滅菌法と消毒法
12回（3コマ）	衛生管理 消毒薬
13回（4コマ）	模擬試験 解説

ペットスタイリスト入門Ⅰ

学科共通科目 1年 前期 26時間 2単位 講義

講師 佐山百合子・内田英和・森香

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子含む3名】トリミングサロンにおけるトリミング業務
学科・クラス指定等	1年生全員
学習目標	シャンプーや皮膚・被毛のメカニズムなどグルーミングに関する基礎知識を身につける
学 び の キーワード	グルーミング 皮膚 被毛 シャンプー ブラッシング コーミング ドライング 爪切り 耳掃除 肛門腺絞り クリッピング
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を通読しておくことが望ましい。講義した内容は必ずノート・教科書で復習しておくこと
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用し板書される。必要に応じて資料・パワーポイントの説明が付属。人形や実際に道具を用いて講義をすることもある。原則として学習深度をはかるため学期末試験を設ける。授業内容はスケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席 30%、期末試験 70%で評価する。
備 考	教科書：NAVA グルーミングの基礎
授業回数	
1	グルーミング用具の名称・使用方法及び手入れ方法
2	グルーミング用具の名称・使用方法及び手入れ方法
3	グルーミング用具の名称・使用方法及び手入れ方法
4	美容実習の流れについて解説する。
5	(実習日の1日の流れ)
6	グルーミングの歴史と意義・目的と心構えについて解説する。
7	体の各部位の構造と手入れについて(肛門嚢・パッド・口腔内)
8	ブラッシング、コーミングの正しい方法の解説。
9	ウィッグを使用して練習
10	皮膚と被毛について解説する。
11	シャンプーの成分及び必要性について解説する。
12	校内のシャンプーの種類と使用法について解説する。
13	リンスの成分及び目的について解説する。
14	ドライングの目的と方法について解説する。 グルーミングの手順について解説する。

15	グルーミングの手順
16	生体管理の方法①（クレイトの消毒・出し方・抱き方・水の与え方）について解説する
17	生体管理の方法②（リードのかけ方・排泄の方法）
18	講義実習①-1 グルーミング／ダックス等の手順について解説する。
19	講義実習①-2 グルーミング／ダックス等の手順について解説する。
20	生体の扱い方①老齢犬について解説する。
21	生体の扱い方②仔犬について解説する。
22	生体の扱い方③肥満犬について解説する。
23	講義実習②-1 ポメラニアングルーミングの手順について解説する。
24	講義実習②-2 ポメラニアンのカット2種を解説しながら実演する。
25	グルーミング用具によるケガと予防について解説する。 クリッパー、スリッカー爪切り、逃走
26	講義実習③-1 プードルのグルーミングの手順について解説する

ライセンス対策講座 I

学科共通科目 1年 後期 44時間 2単位 講義

講師 佐山 藤田 坂本 内田 森

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	<p>【佐山百合子・森香・内田英和】トリミングサロンにおけるトリミング業務</p> <p>【藤田圭佑】動物園/動物病院における動物看護・受付・診察補助業務</p> <p>【坂本健】犬の幼稚園・保育園/しつけ方教室におけるドッグトレーニング（しつけ）業務</p>
学科・クラス指定等	1年生全員
学習目標	人と動物の共生する社会が注目を浴び、動物の飼養管理法、接し方が変わりつつある中で、ペット産業に従事する者としての必要な基礎知識を身につけ、実務に対応できることを目指す。最終的に家庭動物管理士3級資格、ペットケアアドバイザー資格、ドッグインストラクター資格、トリマー3級の資格取得を目指す。
学びのキーワード	適正飼養管理 動物取扱業 食事 運動 動物の展示 衛生管理 健康管理 看護手技 飼養管理 健康管理 衛生管理 食事管理 ドッグインストラクター 犬のコミュニケーション ストレス 古典的条件付け オペラント条件付け リーダー 社会化 パピーレススン コミュニケーションスキル 問題行動 適切な管理 犬体名称 グルーミング用具 耳の手入れ グルーミング用語 咬合 シャンピング ベイジング ドライング 事故と応急処置 毛色 ドッグショー
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を通読しておくことが望ましい。講義した内容は必ずノート・教科書で復習しておくこと
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。試験対策講座のため、各章の内容は重要なポイントを抜粋する形となる。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席 30%、期末試験 70%で評価する。期末試験とは資格取得試験を意味する。
備考	家庭動物管理士テキスト（ZPK）、ペットケアアドバイザー（NAVA）  ドッグインストラクターテキスト（ZPK） グルーミングの基礎（NAVA）
授業回数	
1	動物取扱業者の職業倫理
2	動物取扱業の社会的役割と責任（動物取扱業）
3	諸外国の動物愛護の法と精神

4	動物販売に必要な基礎知識
5	トラブルについて
6	広告規制・重要事項事前説明・犬猫等販売者規制
7	接客マナーの基本 お客様のニーズ
8	商品に対する基礎知識 犬猫の健康チェック
9	ペット用品の基礎知識 被毛を健全に保つペット用品
10	まとめ 試験出題傾向など
11	看護手技 保定法 バイタルサイン 体重測定
12	飼養管理 繁殖 遺伝
13	飼養管理 子犬子猫の飼育と健康管理 小動物の飼育と管理
14	健康管理 日常の健康管理[前編]
15	健康管理 日常の健康管理[後編]
16	衛生管理 口腔衛生
17	衛生管理 感染症と予防
18	衛生管理 消毒
19	食事管理 栄養素
20	食事管理 食事を与えるさいの注意 肥満 特別療法食
21	ペットショップの販売に関する基礎知識 ペットの販売
22	ペットショップの販売に関する基礎知識 売り場づくり
23	ペットショップの販売に関する基礎知識 入りやすい売り場
24	ペットショップの販売に関する基礎知識 見たくなる売り場
25	ペットショップの販売に関する基礎知識 触れたくなる売り場
26	ペットショップの販売に関する基礎知識 商品販売について
27	ペットショップの販売に関する基礎知識 ペットフード
28	ペットショップの販売に関する基礎知識 ハウス リード
29	ペットショップの販売に関する基礎知識 シャンプー ブラシ
30	ペットショップの販売に関する基礎知識 犬用衣類 アクセサリー
31	犬についての基礎知識 コミュニケーションとストレス
32	犬のしつけに必要な理論
33	しつけの基本と実践 子犬の社会化
34	飼い主とのコミュニケーション 犬を適切に管理する
35	問題行動改善のための基礎知識
36	犬体名称 グルーミング総論
37	用具について 耳の手入れ
38	グルーミング用語 咬合 体高と体長
39	シャンピング ベイジング ドライング
40	トリミング中の事故と応急処置 プードルの毛色 ドッグショー（犬種 9

41	ペットケアアドバイザー試験模擬演習
42	ドッグインストラクター試験模擬演習
43	家庭動物管理士3級試験 模擬演習
44	トリマー3級試験 模擬演習



ライセンス対策講座Ⅱ

学科共通科目 2年 後期 6時間 1単位 講義

講師 藤田圭佑 坂本健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務  【坂本健】犬の幼稚園・保育園/しつけ方教室におけるドッグトレーニング(しつけ)業務
学科・クラス指定等	2年生 全コース
学習目標	2年後期に実施予定の[動物介在福祉士]、[キャットマイスターアドバンス]のライセンス取得を目指し、各試験範囲のポイントを押さえていく。
学 び の キーワード	動物愛護 動物福祉 動物観 動物観への影響 宗教 人と動物の関係 共生 動物介在介入 動物介在活動 動物介在療法 動物介在教育 使役動物 補助犬 生命倫理 動物生命倫理 動物観 HAB IAHA10 動物虐待 RSPCA デルタ協会 動愛法 猫の体型 アイカラー カラーパターン 発生スタイル 種類 猫の体 行動 食事と栄養 疾患 猫のグルーミング 繁殖
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、評価試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。評価試験とは資格取得試験を意味する。資格試験は合否ではなく点数を評価に反映する。
備 考	TEXT OF キャットマイスター (ZCC)
授業回数	
1 回	動物介在福祉士対策 動物福祉と愛護 動物観 人と動物の関係
2 回	動物介在福祉士対策 動物介在活動・療法・教育 生命倫理
3 回	動物介在福祉士対策 模擬演習
4 回	キャットマイスターアドバンス級対策 猫の体型 アイカラー カラーパターン  発生スタイル 品種

5 回	キャットマイスターアドバンス対策 猫の行動 食事と栄養 疾患 グルーミング 繁殖
6 回	キャットマイスターアドバンス対策 模擬演習

就職対策講座Ⅱ

学科共通科目 2年 前期・後期 30時間 2単位 講義

講師 佐山 藤田

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子】トリミングサロンにおけるトリミング業務  【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	2年4コース
学習目標	ペット業界・動物業界への就職を目指し希望企業からの内定を得るため、そして社会人に必要なビジネスマナー等を理解し習得する。
学 び の キーワード	企業研究、就職に向けた研修、面接試験のポイント、お礼状、社会人のマナー、労働基準法、新入社員の心得
準備学習及び復習の内容・履修条件	習得したビジネスマナーを駆使し面接試験・就職に向けた研修で良い結果を出すために授業での再確認（復習や実践を含め）することによりビジネスマナーの精度を上げる。
授業方法	講義はホワイトボードを利用し板書する。必要に応じて資料を配布するが、基本的には教科書に基づいて行う。年2回の学期末試験を実施して講義内容の理解度を図り向上を目指す。
成績評価基準	講義への出席率30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	コミュニケーション・キャリアガイダンス（N A V A）
授業回数	
1 回目(3時間)	模擬面接②について
2 回目(3時間)	求人票の活用と求人情報の収集について
3 回目(3時間)	業界企業研究・就職に向けた研修について
4 回目(3時間)	業界における面接試験のポイントについて
5 回目(3時間)	就職試験結果後の進め方について
6 回目(3時間)	内定後の研修等について
7 回目(3時間)	社会人としてのマナー①（電話応対・接客マナー等）
8 回目(3時間)	社会人としてのマナー②（報告・連絡・相談等）
9 回目(3時間)	労働基準法について
10 回目(3時間)	新入社員の心得について

総合学習 I

学科共通科目 1年 前期・後期 72時間 3単位 実習 必修

講師 森香 藤田圭佑 坂本健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	<p>【森香】トリミングサロンにおけるトリミング業務</p> <p>【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務</p> <p>【坂本健】犬の幼稚園・保育園/しつけ方教室におけるドッグトレーニング(しつけ)業務</p>
学科・クラス指定等	1年生全員
学習目標	学校行事や施設見学、就職説明会、特別講師による授業等を通して視野を広げ、協調性やチームワークを身につける。
学 び の キーワード	学校行事、施設見学、特別授業、就職説明会、防災訓練、清掃活動
準備学習及び復習の内容・履修条件	学校行事や施設、講師の情報は事前に収集して準備しておくこと。学んだことはレポートとして提出し、学校での学習に活かす。
授業方法	学校行事や校外の施設見学、特別授業への参加。終了後にレポートを担当教員へ提出すること。
成績評価基準	出席 30%。レポート 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1	オリエンテーション
2	健康診断・薬物乱用防止セミナー
3	スポーツ交流会
4	水族館見学ドッグショー見学
5	フライボール競技会見学
6	全国ペット協会就職説明会
7	ペットショップ見学
8	防災訓練
9	清掃活動
10	ハロウィン
11	ドッグショー見学

総合学習Ⅱ

学科共通科目 2年 前期・後期 43時間 2単位 実習 必修

講師 内田英和 藤田圭佑 坂本健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【内田英和】トリミングサロンにおけるトリミング業務  【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務  【坂本健】犬の幼稚園・保育園/しつけ方教室におけるドッグトレーニング(しつけ)業務
学科・クラス指定等	2年生 全コース
学習目標	学校行事を通して、集団での行動を意識し社会(集団)でのあり方を学ぶ。
学ひのキーワード	健康診断 スポーツ交流会 学内企業説明会 ZPK就職ガイダンス 防災訓練 校外清掃 ハロウィン 大掃除
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に行事予定を確認し、率先して準備、片づけに加わること。
授業方法	学校行事への参加を授業への参加とみなす。
成績評価基準	出席30%、レポート70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	
授業回数	
1	体調管理 自己管理
2	集団行動 運動 交流 準備 片づけ
3	正装の着用 一般常識 就職活動のルール 面接
4	正装の着用 一般常識 就職活動のルール 面接
5	防災意識 防災訓練 環境美化 環境維持活動
6	集団行動 コミュニケーション 準備 片づけ
7	環境美化 環境維持活動 防災意識

動物介在療法学

学科共通科目 1年 後期・2年前期 16時間 1単位 講義

講師 小笠原忠彦

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【小笠原忠彦】病院の経営、院長で医師として診察・治療を担当
学科・クラス指定等	1・2年生 全コース
学習目標	動物介在療法（AAT）とは何かを理解し、どのような活動がなされているかを知り、動物がもたらす影響を知る。
学 び の キーワード	動物介在療法 精神 心理学
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はパワーポイントを利用して講義する。各授業終了後にレポートを提出し学習深度の理解を図る。
成績評価基準	講義への出席 30%、レポート評価 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1	動物介在療法とは 精神疾患について
2	アニマルセラピーの現状
3	動物介在に必要な介護支援
4	動物介在に必要なストレス学
5	動物介在に必要な精神 心理学 虐待について考える
6	小児病棟に及ぼす動物の効果 子供の発達と動物の関連性
7	動物がもたらす効果・事例 自閉症 発達障害
8	動物がもたらす効果・事例 アルツハイマー

動物総合基礎実習

学科共通科目 1年 前期 105時間 4単位 実習 必修

講師 佐山百合子・内田英和・森香・鈴木彩乃・葛西宜宏

藤田圭佑・友成公一・野瀬修央・倉田健・坂本健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	<p>【佐山百合子・内田英和・森香・鈴木彩乃】トリミングサロンにおけるトリミング業務</p> <p>【葛西宜宏】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理</p> <p>【友成公一・倉田健・野瀬修央】動物病院における診察・治療</p> <p>【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務</p> <p>【坂本健】犬の幼稚園・保育園/しつけ方教室におけるドッグトレーニング（しつけ）業務</p>
学科・クラス指定等	1年生 全コース
学習目標	今後の進路選択の指標と意識向上を目的に、4コースの専科基礎を学び、動物に関する幅広い知識と技術を身に付ける。
学 び の キーワード	保定、体温測定、聴診、バイタルサイン、血液塗抹、尿試験紙、糞便検査、コマンド、行動学、シャンプー、ブロー、爪切り、肛門腺しぼり、道具の使い方、消毒、モルモット、ウサギ、鳥類の保定 イヌ 社会化期 コミュニケーション 生得的行動 習得的行動 馴化 鋭敏化 古典的条件付け オペラント条件付け エキゾチックアニマル、両生類、爬虫類、草食動物、猛禽類、鳥類、飼育舎、レイアウト、標本、飼育法、給餌、排泄、健康管理、温度、湿度、飼料管理、動物舎、在庫管理、清掃、観察
準備学習及び復習の内容・履修条件	自身の道具は名前を覚える、教科書の適応箇所を読んでおく。トリミングの道具は使用後手入れをすること
授業方法	実習各項目（看護、美容、トレーニング、飼育）に応じて各教室での対応となる。一部講義形式を取ることも有り得る。筆記用具とノートは持参する。高校生物資料集にある動物の体と機能について事前に復習しておくこと。動物の保定法は、看護技術のうち最も重要な技術との位置づけをしているので、動物の解剖整理を十分理解して、安全に実施できるよう反復練習をすること。
成績評価基準	実習への出席 30%、レポート課題の作成評価 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。

備考	ペットケアアドバイザー、グルーミングの基礎（N A V A）、ドッグインストラクターテキスト（Z P K）
授業回数	
1 回	動物看護基礎実習 保定 犬の扱い方（人形） 犬の抱き方 台への乗せ方、降ろし方 犬座姿勢
2 回	動物看護基礎実習 耳の手入れの保定 爪切りの保定 猫の抱き方 猫の扱い方
3 回	動物看護基礎実習 保定 バイタルサイン 体温 呼吸数 心拍数
4 回	動物看護基礎実習 血液検査 ヘマトクリット検査とは 血液塗抹検査
5 回	動物看護基礎実習 尿検査 試験紙検査 糞便検査 概論
6 回	動物看護基礎実習 糞便検査 直接法 評価
7 回	動物看護基礎実習 バイタルサイン 聴診 体温測定 呼吸
8 回	動物看護基礎実習 日常ケア 眼、耳、爪、皮膚、歯、全身
9 回	犬用具の扱い方（首輪・リードの持ち方）
10 回	トレーニング用具の使い方（コング）
11 回	犬の扱い方①
12 回	犬の扱い方②
13 回	誘導法トレーニング①
14 回	誘導法トレーニング②
15 回	エキゾチックアニマル（ウサギ・モルモット）の飼育・管理方法（適切なふれあい方、給餌方法、餌の作り方、飼育舎内の清掃、餌在庫管理、生態の観察）
16 回	両生類（アカハライモリ）・爬虫類（リクガメ・フトアゴヒゲトカゲ）動物の飼育・管理方法（適切なふれあい方、給餌方法、餌の作り方、飼育舎内の清掃、餌在庫管理、生態の観察、温度・湿度の管理）
17 回	草食動物（ヤギ）の飼育・管理方法（適切なふれあい方、給餌方法、餌の作り方、飼育舎内の清掃、飼育舎の改装・修復、餌在庫管理、生態の観察）
18 回	鳥類・猛禽類動物の飼育・管理方法（適切なふれあい方、給餌方法、餌の作り方、飼育舎内の清掃、餌在庫管理、生態の観察、温度・湿度の管理）
19 回～22 回	トリミング実習見学、グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、爪切り）ハサミの動かし方
23 回～26 回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、爪切り）シャンプー見学、ハサミの練習
27 回～30 回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習
31 回～34 回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習
35 回～38 回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習



39回～42回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習
43回～46回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習
47回～50回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足まわりカット
51回～54回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足まわりカット
55回～57回	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足まわりカット

繁殖飼育学

1年 前期・後期 13時間制

講師 佐山百合子

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子】トリミングサロンにおけるトリミング業務, ケネル（犬舎）におけるブリーディング（繁殖）
学科・クラス指定等	1年生全員
学習目標	繁殖に係わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生児管理、遺伝学の基礎知識を習得する。また、飼育に係わる管理法を学び、動物の生態や健康管理の基礎知識を習得する。
学 び の キーワード	雄雌生殖器、性周期、受精、交配、分娩、妊娠診断、新生児管理、遺伝学概論、品種、生態、飼育管理法。
準備学習及び復習の内容・履修条件	主な動物の生殖器に関係する部位を事前に学習しておくことが望ましい。また、各回のテーマに沿った教科書の該当部分を事前に通読しておくとともに、講義した内容の理解を深めるために、板書した講義内容のノートを必ず復習しておくこと。
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	教科書:家庭動物管理士テキスト3級（全国ペット協会）
授業回数	授業内容
1	繁殖の基礎概念や適正な繁殖の仕方を解説する。
2	台犬の選択・犬の繁殖形態について解説する。
3	繁殖施設の多頭飼育の衛生管理について解説する。
4	雌犬雌猫の発情期と発情周期及び発情生理学について解説する。
5	繁殖の方法のうち、繁殖の準備、交配日の決め方について解説する。
6	繁殖方法のうち、妊娠の兆候と妊娠の診断について解説する。
7	繁殖方法のうち、出産の兆候について解説する。
8	繁殖の方法のうち、出産の経過について解説する。
9	繁殖の方法のうち、胎盤の処置、助産について解説する。
10	繁殖の方法のうち、新生子の管理、初乳、人工哺乳について解説する。
11	哺乳期の子犬の健康管理について解説する。

12	血統書の意義と見方, 犬の繁殖と法規について解説する。
13	評価試験

キャットマイスター学Ⅰ

1年 前期 後期 必修 21間制(単位)

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	1学年・全コース
学習目標	飼育頭数が増えている状況を鑑み、現状での動物業界に対応すべく猫に関する形態機能、疾病、行動、繁殖、品種について専門的に履修することで 専門性の高い知識・技術習得を目指していく。キャットマイスターベーシックの取得を目指す。
学 び の キーワード	猫の起源、猫の品種、形態機能、疾病、健康管理、行動学、繁殖、ペットショップ内での管理、問題行動
準備学習及び復習の内容・履修条件	授業後は授業で履修したノートを見返すこと。
授業方法	講義が主体。ホワイトボード、パワーポイント等の資料を使いながら講義をしていく(教科書で不足する資料は配布する可能性あり)
成績評価基準	出席 30%、評価試験 70% (キャットマイスターベーシックの結果を採用)
備 考	ZCC TEXT BOOK CAT MEISTER (ZCC)
授業回数	
1	猫の起源、猫の種類
2	猫の発生スタイル、猫のカラーパターン
3	猫の健康管理、猫の疾病
4	猫の習性、問題行動
5	ペットショップにおける猫の管理
6	猫の繁殖、仔猫の管理
7	猫のグルーミング

キャットマイスター学Ⅱ

2年 前期 後期 必修 6間制(単位)

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	2学年・全コース
学習目標	飼育頭数が増えている状況を鑑み、現状での動物業界に対応すべく猫に関する形態機能、疾病、行動、繁殖、品種について専門的に履修することで 専門性の高い知識・技術習得を目指していく。キャットマイスターアドバンスの取得を目指す。
学 び の キーワード	猫学、グルーミング、遺伝性疾患、ズーノーシス、ボディランゲージ、猫の選び方、飼育管理、生体販売、ペットホテル
準備学習及び復習の内容・履修条件	授業後は授業で履修したノートを見返すこと。
授業方法	講義が主体。ホワイトボード、パワーポイント等の資料を使いながら講義をしていく(教科書で不足する資料は配布する可能性あり)
成績評価基準	出席 30%、評価試験 70% (キャットマイスターベーシックの結果を採用)
備 考	ZCC TEXT BOOK OF CAT MEISTER (ZCC)
授業回数	
1	猫の歴史(世界と日本)
2	猫のグルーミング
3	猫の疾病、健康管理
4	猫の選び方、飼い方
5	ペットショップでの生体販売
6	ペットショップでのホテル管理

# ドッグトレーニング入門

1年 前期 必修 18時間制

講師 坂本健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【坂本健】犬の幼稚園・保育園/しつけ方教室におけるドッグトレーニング（しつけ）業務
学科・クラス指定等	1年生全員
学習目標	犬の起源・特徴を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの基礎を理解し実技での動物の扱い方に活かす
学びのキーワード	イヌ 家畜化 犬種 行動発達 社会化期 コミュニケーション 生得的行動 習得的行動 馴化 鋭敏化
準備学習及び復習の内容・履修条件	各回のテーマに沿った教科書該当部分を事前に通読しておくとともに、板書した講義内容のノートを必ず復讐すること。
授業方法	ホワイトボードでの板書、パワーポイントでの解説により行う 学期末試験を1回実施し学習深度の向上を図る
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容はスケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	ドッグインストラクターテキスト（ZPK）
授業回数	
1	行動学の基礎
2	しつけの必要性和重要性
3	犬の家畜化
4	犬の起源と人との関係
5	犬の気質と性質を理解する
6	犬の成長段階と社会化①（新生子期・移行期）
7	犬の成長段階と社会化②（コミュニケーション）
8	犬の成長段階と社会化③（社会化期）
9	避妊・去勢の必要性
10	犬のコミュニケーション行動①

11	犬のコミュニケーション行動②
12	犬のストレス行動
13	あいさつ行動
14	対立行動
15	服従行動
16	威嚇と攻撃的な行動
17	生得的行動・習得的行動
18	馴化・鋭敏化

家庭動物管理士学

1年 前期・後期 10時間制

講師 佐山百合子

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子】トリミングサロンにおけるトリミング業務
学科・クラス指定等	1年生全員
学習目標	人と動物の共生する社会が注目を浴び、動物の飼養管理法、接し方が変わりつつある中で、ペット産業に従事する者としての必要な基礎知識や実務に対応できる姿を目指す。最終的に[家庭動物管理士3級]の取得を目指す。
学 び の キーワード	適正飼養管理 動物取扱業 食事 運動 動物の展示 衛生管理 健康管理 ペット用品 接客マナー 広告規制 説明事項
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を通読しておくことが望ましい。講義した内容は必ずノート・教科書で復習しておくこと
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。試験対策講座のため、各章の内容は重要なポイントを抜粋する形となる。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。期末試験とは資格取得試験を意味する。
備 考	家庭動物管理士テキスト（ZPK）
授業回数	
1	動物取扱業者の職業倫理
2	動物取扱業の社会的役割と責任（動物取扱業）
3	諸外国の動物愛護の法と精神
4	動物販売に必要な基礎知識
5	トラブルについて
6	広告規制・重要事項事前説明・犬猫等販売者規制
7	接客マナーの基本 お客様のニーズ
8	商品に対する基礎知識 犬猫の健康チェック
9	ペット用品の基礎知識 被毛を健全に保つペット用品
10	まとめ 試験出題傾向など



就職対策講座 I

学科共通科目 1年 前期・後期 45時間 3単位 講義

講師 佐山 飯田 藤田

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子】 トリミングサロンにおけるトリミング業務  【藤田圭佑】 動物病院における動物看護・受付・診察補助業務  【飯田一成】 ペット関連企業における人事・採用担当
学科・クラス指定等	1年全コース
学習目標	ペット業界・動物業界への就職を目指し必要なビジネスマナー全般を習得する。
学 び の キーワード	挨拶、お辞儀の仕方、言葉遣い（言葉の遣い分け）、身だしなみ、接客、履歴書作成、面接、研修への心構え
準備学習及び復習の内容・履修条件	準備より復習の意味で、学習したビジネスマナーを校内で実践的に練習することにより習得できるものである。（挨拶、お辞儀の仕方、言葉遣い等）
授業方法	講義はホワイトボードを利用し板書する。必要に応じて資料を配布するが、基本的には教科書に基づいて行う。年2回の学期末試験を実施して講義内容の理解度を図り向上を目指す。
成績評価基準	講義への出席率 30%、期末試験 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	コミュニケーション・キャリアガイダンス（NAVA）
授業回数	
1 回目(3 時間)	挨拶、お辞儀の仕方について
2 回目(3 時間)	言葉遣い、身だしなみについて
3 回目(3 時間)	オープンキャンパス参加について
4 回目(3 時間)	オープンキャンパス参加への目標と実践内容について
5 回目(3 時間)	オープンキャンパス参加のレポートについて
6 回目(3 時間)	就職活動の進め方
7 回目(3 時間)	接客マナー（上座・下座等）について
8 回目(3 時間)	自己分析シート作成について
9 回目(3 時間)	履歴書作成導入について
10 回目(3 時間)	自己PR・志望の動機作成について
11 回目(3 時間)	履歴書作成完成・添え状の書き方について
12 回目(3 時間)	研修実施の進め方・アプローチについて
13 回目(3 時間)	企業研究、研修先へのアポイント・電話のかけ方について
14 回目(3 時間)	お礼状の書き方について

15 回目 (3 時間)

模擬面接①について

動物介在福祉学

1年 前期・後期 20時間制

講師 藤田 坂本健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務  【坂本健】犬の幼稚園・保育園/しつけ方教室におけるドッグトレーニング（しつけ）業務
学科・クラス指定等	1年生 全コース
学習目標	動物介在活動と動物福祉を理解し、動物との共生、欧米の文化である動物福祉の考えを理解する
学 び の キーワード	動物介在、介在活動、介在教育、介在療法、犬の適性、適性検査、動物福祉
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1	動物福祉の歴史（人の福祉、動物の福祉とは何か）
2	動物福祉の歴史（西洋と日本の動物観の違い）
3	動物福祉の歴史（日本における動物福祉と愛護）
4	伴侶動物の福祉
5	動物と人の絆 人にもたらす3つの効果
6	子どもの発達と動物の関連性
7	高齢者施設に及ぼす動物の効果
8	犬の適性
9	動物介在活動の流れ
10	動物介在活動の注意点

動物看護入門 I

講師 藤田圭佑 前期 33 時間

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	1 年生 全コース
学習目標	動物総合学科として、動物看護分野での基礎知識を身につけ専門科講義へのステップとする。また専門で学ばずとも動物と関わっていく中で必要になる知識を習得する
学 び の キーワード	骨、消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌、ワクチン、寄生虫、日常ケア、食べてはいけないもの
準備学習及び復習の内容・履修条件	対象となる教科書を事前に読んでおくこと 高校での生物（細胞）の復習はしておくこと
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を 1 回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席 30%、期末試験 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
教員実務歴	ペットケアアドバイザー（N A V A）
授業回数	
1 回（3 コマ）	身体のしくみ 骨の構造、役割、消化器の構造
2 回（3 コマ）	身体のしくみ 消化器の役割、循環器の構造、役割
3 回（3 コマ）	身体のしくみ 呼吸器の構造、役割、泌尿器の構造
4 回（3 コマ）	身体のしくみ 泌尿器の役割、生殖器の構造、役割
5 回（3 コマ）	身体のしくみ 内分泌器の構造、役割、血液の構造
6 回（3 コマ）	身体のしくみ 血液の役割、疾病とは、疾病の予防ワクチン 犬
7 回（3 コマ）	動物の病気 ワクチン 猫、外部寄生虫（ノミ、ダニ、シラミ）
8 回（3 コマ）	動物の病気 内部寄生虫（回虫、鉤虫、鞭虫、フィラリア）
9 回（3 コマ）	動物の健康 日常ケア 眼・耳・爪・皮膚・歯・全身チェック
10 回（3 コマ）	動物の法律 動愛法、ペットフード安全法
11 回（3 コマ）	動物の法律 狂犬病予防法、家畜伝染病予防法、身体障害者補助犬法

講師 藤田

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	2年生 全コース
学習目標	動物看護入門Ⅰで修得した、動物の基礎知識をさらに深めるべく 動物の疾病・衛生管理、今後の専門科目の学習、仕事へ活かせるように知識を修得する。
学 び の キーワード	微生物（細菌・真菌・ウイルス・その他） 感染症の種類 ウイルス感染症 細菌感染症 真菌感染症 節足動物 免疫 消毒薬 ワクチン
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	ペットケアアドバイザー（NAVVA）、その他
授業回数	
1	犬のワクチン 猫のワクチン
2	微生物とは？（細菌・真菌・ウイルス・その他）
3	感染とは？ 感染症の種類
4	ウイルス感染症・細菌感染症
5	真菌感染症 外部寄生虫
6	免疫・消毒

# 動物飼育入門

1年 前期共通 20時間制

講師 葛西宣宏・野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宣宏・野瀬修央】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	1年生 全員
学習目標	近年、人との関わりの稀薄なエキゾチックアニマルと呼ばれる野生由来の動物の飼育がブームとなっている。進路として動物関係の職業を希望するもののベーシックな知識としてこれらの動物の分類学、形態学、生理学、生態学及び飼養管理学の基礎知識の習得。 また、動物を管理し不特定多数の来園者やお客様の対応する側の職員として法令・条例関係の背景や法令順守の精神を醸成する。
学 び の キーワード	分類 形態 生理 飼養管理 3Rの法則 5つの自由 飼育環境 エンリッチメント ハズバンダリートレーニング 特殊飼料 事業計画 危機管理 コンプライアンス
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前にテキスト、配布物等の通読及び専門用語の理解を行う。また、あらかじめ質問事項の洗い出しを行い、講義終了時に自ら口頭で申し出るようにし、要点の整理された質問項目を投げかけるトレーニングを行い人前での発声の慣れを養う。
授業方法	基本的にはテキストに沿いスライド、ホワイトボードを用い行う。配布資料については、関係省庁の通達等の資料を補助教材として用い、法的未整備の部分に於いては、国際標準（アメリカ国立衛生研究所の飼育基準及び各国の定める飼育基準）に準拠する。
成績評価基準	前期期末試験における得点及び節目ごとのレポートの作製、小テストの内容により評価を行う。
備 考	
授業回数	授業内容
1	動物園とは
2	エキゾチックアニマルについて
3	水族館について（海水編）
4	齧歯目・ウサギ目飼養管理（ウサギ・ハムスター・モルモット）
5	動物園動物・鳥類飼養管理（セキセイインコ）

6	両生・爬虫類飼養管理（カメ・フトアゴヒゲトカゲ・ヘビ・カエル）
7	水族館について（淡水編）

動物理学療法学 I

1年 前期 後期 30時間制 (単位)

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】 動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	1学年・全コース
学習目標	動物医療の現場で普及が進む、動物の理学療法に関する基礎知識の習得、さらにその知識を介護への活用を目指していく。動物理学療法2級ライセンスの取得を目指す。
学 び の キーワード	動物理学療法、リハビリテーション、携帯機能学、創傷治癒、病態評価、理学療法、運動療法、水治療法、物理療法、シニア期のケア、マッサージ
準備学習及び復習の内容・履修条件	授業前に対象となる範囲を読んでおく。授業後はノートの内容を読み直しておくこと。
授業方法	講義が主体、ホワイトボード・パワーポイント等を利用した講義形式、
成績評価基準	出席 30%、評価試験 70% (動物理学療法士 2 級試験を採用)
備 考	動物理学療法士 2 級テキスト (JAPTA)
授業回数	
1	1章 動物理学療法総論 2章 動物理学療法に必要な基礎知識 形態機能
2	2章 動物理学療法に必要な基礎知識 創傷治癒 3章 病態評価
3	3章 病態評価
4	3章 病態評価
5	3章 病態評価
6	4章 理学療法の種類と方法
7	4章 理学療法の種類と方法
8	4章 理学療法の種類と方法
9	4章 理学療法の種類と方法・試験前模擬試験
10	5章 シニア期のケア・模擬試験復習



